

Narashino International Association



Narashino International Association

NIA SQUARE フクウエア

Quarterly News

第63号

2003年9月1日

習志野市国際交流協会

- Special** インドネシア ラヤ
- What's New** デンマークで生まれた風力発電
- Report** ポートランド留学体験記
- Report** N.I.A. 事業報告

- N.I.A Youth** 皆さんのお待ちしています
- Who's who** こんにちわ・コンニチワ
- Challenge** ザ・英文クロスワード

インドネシア ラヤ (偉大なるインドネシア)

イエシ・アルフェリナ
Yessy Arvelyna
(東京水産大学大学院生)

はじめに

こんにちは、イエシ・アルフェリナです。私はインドネシアから来ました。今回はインドネシアの文化と旅行について話したいと思います。

インドネシアは、文化と言語の多様性で有名です。インドネシア全体の人口は2億人以上で、日本の人口の2倍になります。365の民族があり、それぞれのグループは、バハサインドネシアおよび他の583の方言や民族語で話します。バハサインドネシアは国の公用語として使用されており、それが各民族の間のコミュニケーション言語になります。インドネシアの人々のほとんどは5つの大きな島、スマトラ、ジャワ、カリマンタン、スラウェシおよびイリアン・ジャヤに住んでいます。島ごとに特徴があり、スラウェシ人は中央アジア系のように色白で、スマトラ人は色が濃く、イリアン・ジャヤ人はアフリカ人のように色が濃く髪の毛も縮れています。主な人種、種族のグループは9つあり、それは、アジエ一人およびバタク人(スマトラ島の北部)、ミナンクカバウ人(スマトラ島の西部)、ジャワ人(ジャワ島)、スンダ人(ジャワ島の西部)、セレベス人(スラウェシ島)、バリ島の人(バリ島)、ササク人(ロンボク島)、そしてダニ人(イリアン・ジャヤ島)です。それぞれが日常話す言語も習慣もそして住居も大きく違い、独特の文化を作り出しています。そのため国内旅行が海外旅行のように楽しく、それはまるでヨーロッパの人がヨーロッパ旅行をしている、そんな感じです。国内旅行の人気が高いのも納得できます。

いち位置(Position)

インドネシアはアジア大陸とオーストラリア大陸の間に位置しているため、世界各国の貿易の海そして空から輸送拠点としての役割を担っています。気候は、雨季と乾季に分けることができます。一年を通して暖かい気温なので、木材、コーヒー、ゴムおよびヤシ油のプランテーションを作っており、それらは近隣諸国へ輸出する主な製品になっています。

ジャワ島

人口1000万人にもなる首都ジャカルタはジャワ島にあります。人々はほとんど郊外の一軒家に住み、1.5時間ほどかけて車で出勤します。アパートは家賃が高いのであまり好まれません。首都ジャカルタはインドネシアのいろいろな場所から人々が集まってくる民族のるつぼです。ざざ祭りも多いことだろうと思うですが、逆にあまり祭りは行われません。さまざまな民族・習慣・文化が入り混じっているため、逆行われなくなっています。その代わり地元(それぞれの島)ではその地方に伝わる伝統的な祭りが多く開かれます。

ボロブドゥール寺院 (Borobudur Temple)

中央ジャワ島、ジョグジャカルタの近くに、9世紀に構築された世界で最も大きな仏教の寺院、「ボロブドゥール」があります。この寺院は7階に分割されています。大仏は430を超える彫像で埋め尽くされています。お寺の壁には1500枚のパネルがあり、仏教の教えやそれに伴った物語、そして当時の生活などが刻まれています。ボ

ランバナンおよびメンヅツ寺院のような他の仏教寺院がある中で、ボロブドゥールは国内、国外問わず、最も観光客が訪れる寺院です。夏休みになるとこの寺院は小学生から大学生までの多くの学生で混みあいます。私は学校の旅行と家族旅行で2、3回ボロブドゥールを訪れました。寺院の影像のすばらしさやそのサイズ、そして寺院の壁に刻まれている物語を見て大変驚いたのを覚えています。



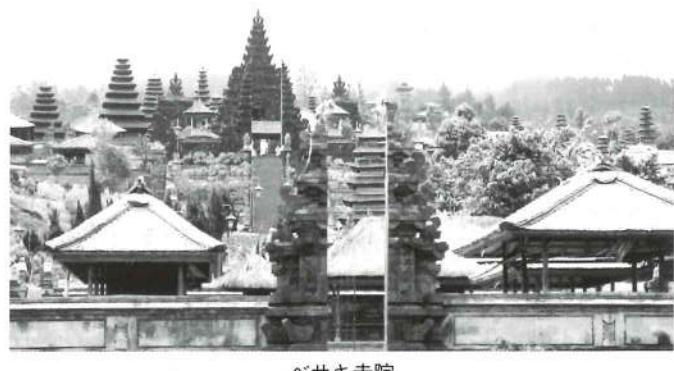
ボロブドゥール寺院

バリ島

日本でも観光地として有名なバリ島は国内でも人気で、私も4回ほど遊びに行きました。イスラム教の多いインドネシアにおいて、唯一ヒンドゥー教が大半を占める島です。バリ島のヒンドゥー教は「バリヒンドゥー」と呼ばれ、独自の発展を遂げバリ島の文化と融合しています。バリは外部からの文化をあまり受け入れず、バリの文化を守ってきたため、伝統的で特色のある祭りや踊り・民族衣装・住居が残っており、今でも私達の眼を楽しませてくれます。

ベサキ寺院 (Besakih Temple)

ベサキ寺院はバリ島の母親的存在の寺院です。バリ人にとってベサキ寺院は最も宗教的な寺院です。この寺院は23の寺院に分割されています。それは、1000mの高さ



ベサキ寺院

でアゲン山の横に位置しています。ジャワ島のヒンドゥー寺院に比べると、ベサキ寺院は建物の形や刻まれた壁、建物の先にあるピラミッドのスタイルなどが他と随分異なる形になっています。ヒンドゥー教の大きなフェスティバルはいつもベサキ寺院で開催されます。

祭りでは、多くの種類の踊りが行われます。パリダンスは、古いバリ王国の王子および王女の物語を主に含んでいます。パロンギダンスでは、善靈や悪い精神が表現されており、最後は善靈勝利で幕が下ります。パロンギの形は、バリ文化のイメージを備えたライオンの形から得られます。昨年、バリで大災害がありましたが、バリ島の宗教的な生活のおかげで、なんとか現況まで修復しました。



パロンギ踊り

スラウェシ島：トラジャ人種族

主な種族の中で、スラウェシ中部のトラジャ人種族を詳しく説明したいと思います。トラジャ人種族はスラウェシ中部のランテパオの村に住んでいます。タナ・トラジャの人々はトラジャ語を話します。タナ・トラジャは美しい丘や水田などの景色の美しさで有名で、多くの観光客を惹きつけています。さらに、魅惑的な文化はこのエリアへ来る観光客の目を一層楽しませてくれます。トラジャ人は農耕民族として生きています。その味で有名なトラジャコーヒーは、既に他の国々へ多く輸出されています。東京にあるいくつかのコーヒー店で味わうことができます。

トラジャの家はトンコナン様式の家です。鶏と水牛のモチーフが描かれ、そして刻まれて作られます。家の正面および後部トップに水牛の角のような特別の形を持っています。

トラジャの人々にとって、水牛は最も重要な動物であり、経済的インパクトがあります。農業やフェスティバル、葬式、そして戦う雄牛として生活の中で通常使用されていました。

白い水牛の価格は黒いものより10倍、もしくはもっと



トンコナン様式の家

高く、とくにお葬式の中でささげものとして使用することを好みます。白い水牛は死者を天へとより早く連れていいくことができると彼らが信じているためです。葬式はここでの主な観光のひとつで、村および隣人を招待して開か

れます。お葬式は通常2、3日にわたって開催されます。水牛、雌牛および豚が犠牲にされ、訪れる人々のために料理がふるまわれます。より大きなそして多くの物を供えたお葬式は死人の来世の生活をより裕福にすると言われています。そのため、中には貯金に2,3年かかる家族もあります。そのような場合には死体をミイラのように香油で覆い、お葬式のために作られた特別な家の上に置きます。お葬式が行われた後、死体は通常岩の崖にある洞穴の中に埋葬されます。そして木から刻んで作られた死人の木製人形「tau-tau（トートー）」を洞穴のバルコニーに置きます。

せいかつ 生活

人々はイスラム教(87%)、キリスト教(9%)およびヒンドゥー教(2%)を信じています。イスラム教がほとんどを占めるインドネシアでは、子どもの教育に関してはとても厳しく、日本では当たり前のように放送されているビキニ姿のアイドルはインドネシアではもってのほかです。

インドネシアの子どもは、帆揚げ、木登り、縄跳びなど、外でよく遊びます。家の中でゲームなどを遊んでいる日本人の子ども達にくらべ、とても子どもらしいと思います。スポーツはサッカーに一番人気があり、つづいてバトミントン、テニス、バレーボール、ピンポンなどに人気が集まっています。

がっこう 学校

首都であるジャカルタの学校は生徒数が大変多く、小学生は30-40人ぐらいのクラスが5クラスほど、高校生に

なると1クラス50人程度で10クラスにも及びます。子ども達はみな制服をきて通学し、小学生は白（ブラウス）と赤（短パン・スカート）、中学生は白（ブラウス）と青（スカート・ズボン）、高校生は白（ブラウス）とグレー（スカート・ズボン）と決まっています。そのため、一日見れば小学生か中学生かなどの見分けがつきます。また、学校のルールが厳しいため、日本では当たり前のひざ上げスカートは禁止です。クラブ活動は日本と同じように色々ありますが、日本にないものではスカウト（ガールスカウト+ボーイスカウトのようなもの）とレッドクロス（赤十字）があります。レッドクロスに入ると、全校朝礼などで国旗を上げるといった活動をします。

高校受験はシピアで、全国統一試験の順位で、行く高校が決定します。内申点や普段の成績はまったく考慮されません。中学校では普段の成績もクラス内順位がついで返ってくるため、みんな恥ずかしくないよう一生懸命勉強します。トップの高校に行けても今度は各中学校のトップが集まってきたため、さらに勉強しなくてはなりません。

大学も高校受験と同じく全国統一試験（日本でいうセンター試験）で決まります。一回の試験で決まってしまうため、何年もかけて準備をしたり、何年も挑戦したりする人もいます。こんなところは日本と同じですね。インドネシアでも受験勉強に苦労しています。

おんがく 音楽 (POP)

インドネシアの伝統的な音楽や踊りは観光客を通じて、世界に広がっています。竹で作られた「アンクルン（Angklung）」や「ガムラン（Gamelan）」といった独特な楽器なども有名です。皆さんの中にもインドネシアの伝統的な音楽に触れたことがある人が何人もいることだと思います。しかし、POP音楽についてはあまり知られていません。今回、POPグループと、一番最近出されたCDを紹介します。今のインドネシアのエネルギーを堪能してください。

「Salam Kedelapan」 2003.4 GIGI

GIGI(ギギ)はバンドゥン出身の5人組バンドで、2000年と2001年に日本でライブを行なっています。ポーカルのアルマンドは西ジャワ州ベストボーカリスト賞を受賞しており、インドネシアの3大ロックバンドのひとつと言われています。

http://www4.gateway.ne.jp/~polka-d/gigi_fans/gigi_website_japan.html

「Save My Soul」 2003.8 Padi

Padiとはインドネシア語で稲のこと。爽やかなサウンドで人気を集める5人組バンドです。

環境に優しく、風力で電気を起こす。わが国のエネルギー政策によれば、7年後には、300万kwの風力発電規模にする計画だそうです。風車が回っているのを見るのは楽しいですね。

この風力発電にお詳しい長井先生（日大生産工学部助教授）に記事を書いていただきました。

再生可能エネルギーの必要性：化石燃料が燃焼して走る自動車や火力発電で生じるCO₂などの温室効果ガスは上空の成層圏に滞留し、太陽熱エネルギーの宇宙への拡散を妨げ地球温暖化の原因となっています。温暖化は海面の上昇や干ばつや洪水など異常気象をもたらします。

1997年12月に京都で開催された気候変動枠組条約第3回締結国際会議（COP3）では、先進諸国の温室効果ガスの削減目標量を京都議定書で決めました。わが国は2008年から2010年の平均値で1990年に比べ6%の削減を公約し、昨年6月に国会で批准しました。ロシアが批准して条約が発効しましたが、わが国が目標を達成出来ない時は環境に負荷を与えない再生可能エネルギーによる発電量の証書や植林事業を行い森林のCO₂吸収量のクリジットを調達して達成することになります。

最近の報告では90年比で5.7%増加しており、今後約7年間で11.3%の削減が迫られています。COP3以降、世界各国で急速な伸びを示す風力発電開発の歴史と導入の状況について概説します。

起源と開発史：風車の起源は紀元前4世紀のペルシャ時代と古く、長い歴史から各地で形態の変遷があります。風力発電はデンマーク人のポール・ラクールが1891年にユトランド半島アスコフで実用化したのが最初で100年余りたちます。ラクールは国民高等学校で教鞭をとる傍ら、4枚羽根のオランダ風車型に同期発電機を繋ぎガバナーの調速機をつけた風力発電機を発明しました。そして技術者を養成すると共にデンマーク風力発電協会を設立し、1908年までに10~20kWの風力発電72基を建設しましたが、第二次世界大戦後急速に減少して消滅してしまいました。

1950年代に電力会社を退職したラクール講座の卒業生ヨハネス・ユールは、風車に誘導発電機を用いて電力系統網に接続した実験を行い今日の風力発電システムの基礎を築きました。1956年に完成したGedser（ゲソ）風車は200kWの発電機規模で、主要な機器の交換もせずに10年間故障なしで稼働し2,242,000kWhの発電量を達成しましたが、1967年にペアリングの交換に失敗し廃棄されました。しかし、1970年代に米国NASAの要請でGedser（ゲソ）風車は改造され、3年間のデータ収集を行うため運転されました。



ポール・ラクールの世界初の風力発電機

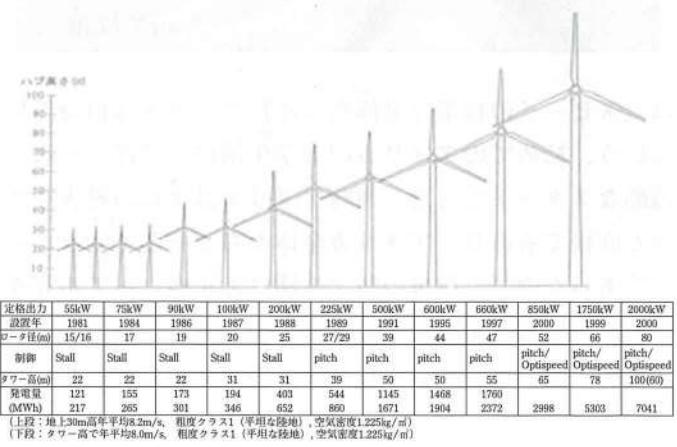
また70年代の石油危機は価格高騰を招き、エネルギー源を転換した石炭火力は酸性雨問題を生じました。そこで再生可能エネルギー開発を目指す市民運動により、再び風力発電に目が向けられました。政府の研究プロジェクトで開発されたRiisager（リザガー）風車はデンマーク風車コンセプトである1)アップウインド2)3枚翼3)翼固定ピッチのストール(失速)制御4)誘導発電機の特長を備えて80年まで、70基が建設されました。

原子力研究のメッカのRisoe（リゾ）国立研究所内に風車のテストセンターを設け、農機具やタンク車メーカーに技術指導を行って風車の品質向上に役割を果しました。またRisoeに認可された風車購入には価格の30%を補助する制度が、風力発電機導入に拍車をかけました。

さらにアメリカで1978年制定されたPurPa法（カリфорニア州で電力会社に再生エネルギー購入〈主に風力発電〉を義務づける）により、デンマーク風車の輸出が積極的に行われ、産業へと成長していきます。

次の図表は風車開発の大型化への時代変遷と基準風速における1基の年間発電量を示します。風車から獲られる出力は、翼の受風面積と風速の3乗に比例します。また風車の大型化は翼の回転中心（ハブ高度）を地面から高くさせ、風速の增速効果をもたらし発電量を増大させます。したがって風の強い場所に設置しないと多くの発電量は期待できません。最新の定格出力2000kW風車の翼長は約40m直径80m、タワー高さ60~100mとジャンボジェット機の投影面積より大きくなります。

年間発電量を標準的家庭の電力使用量の平均3600kWh/年（デンマークでは平均4000kWh/年）で割ると世



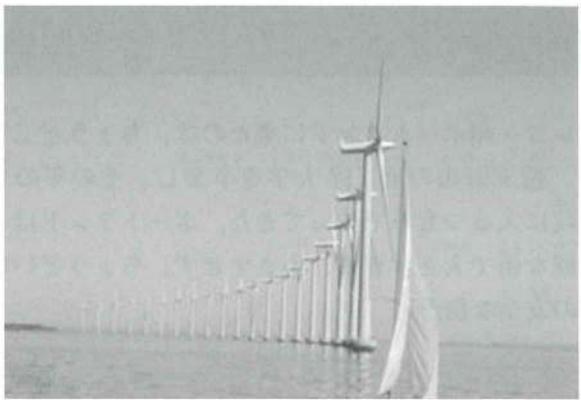
風力発電機開発の変遷と風車発電量の推移

带数が得られ、1 MW h は1000 k Whになります。

導入量推進体制：デンマークは九州ほどの面積(4.3万km²)で、人口は千葉県の599万人より少ない約526万人の国ですが、1996年当時点で3800基合計600MWの風車が稼動し12,000GW h / 年の電力を獲っていました。同年に持続可能なエネルギーの導入指針「エネルギー21」を制定し、CO₂排出量を2000年までに90年水準以下に、2005年までに1988年水準から20%の削減を目指に掲げました。目標達成のために輸送分野など削減が難しい分野は再生可能エネルギーとコジェネレーションの推進でカバーし、合計1500MWの陸上風車を拡大して全電力消費量の12~14%を賄うとしています。さらに2030年までにCO₂排出量を半減させるため、4000MWの洋上風力発電を導入し全エネルギー消費量の35%を賄う長期目標を立てています。また環境省とエネルギー省を統合して環境エネルギー省に組織改編しました。協同組合による個人所有の市民風車が80%を占める中で自治体や電力会社の導入促進、老朽機器の更新への優遇許可や発電力の売電価格に炭素税還元などインセンティブの改廃など経済的負担への配慮の仕組みを確立していました。

現況と動向：昨年末で全世界の風車導入量は2001年末の24,947MWから7227MW増加し、32,037MWとなっています。国別ではドイツ11,968MW、スペイン5043MW、アメリカ4674MW、デンマーク2880MWで、日本は11番目で486MWです。デンマークは1年間で530MW増え5666基となり、全電力量の12%を風力発電で賄い2005年の目標を前倒しで達成しました。わが国は357MWから486MWの615基へ増加し、2010年の導入目標3000MWを目指しています。また昨年デンマークの風車メーカーの生産量は3047MWで、輸出は2640MW、86.6%を占め、約20年間で約2万人あまりの雇用創出する主要な産業に成長しました。

欧洲では陸上への風車設置が進み、風速の高く10~20mの浅水深の洋上風力発電に移行しつつあります。



首都コペンハーゲンの40MW洋上ウインドファーム



北海の世界最大(160MW)の洋上ウンドファーム

2000年冬、コペンハーゲン沖2~3 km の水深5~10 m のMiddelgrunden (ミッテルグレンデン) に協同組合10基と電力会社10基を所有する発電所が完成しました。市民公聴会の意見を反映しわずかに弧を描くようにカーブして配置され、電力は海底ケーブルで陸に送電しています。年間81,000MW h の発生電力は市民約2万世帯の家庭用電力量に相当し、電力会社に売電されています。またユトランド半島エスバーグ沖16~30 km の大陸棚HornRev (ホーンズリーフ) では、2000 k W風車80基の設置が完成し、電力会社自らも出資し15万世帯分の電力を造っています。洋上風力発電はスウェーデン、イギリス、ドイツ、オランダなど沿岸諸国でも計画され、2007年までに5044MWが誕生し、全世界で75,000MWに達すると予想されています。わが国では都心のお台場の中央防波堤に850k W 2基が設置され、多くの人が触れる様になりましたが、この他にも初の海上風車が北海道瀬棚町港湾内に600k W 2基が、秋に誕生し注目をあびています。

終りに：わが国は人口密度が高くエネルギー使用量も多いため、風力発電で僅か数パーセントの需要を満たすことも難しいことです。しかし、各地域の風況適地で風力発電を導入すると、250~2000 k W風車を1500基以上の製造実績メーカや40 k W, 100kW風車の小規模需要地向けメーカと海外風車をライセンス生産するメーカの活性化と環境負荷の少ない電力製造に結びつきます。

電力1 k Wh を風力発電で代替すると317 g-CO₂削減効果が生まれ、地球温暖化を阻止する具体的な行動の成果をわれわれも手にすることができます。

オレゴン州ポートランドに来たのは、ちょうど二年ほど前。習志野市の理工系大学を卒業し、その年の夏に大学院に入るつもりでやってきた。ポートランドはとても綺麗な街で大きすぎず、小さすぎず、ちょうどいいサイズの安全な街だ。



ローズシティと言われるほどバラが有名な街で、六月には、ローズガーデンに色とりどりのバラが咲き誇る。そんなポートランドで留学生活をスタートしたのだが、TOEFLの点数が足りないこともあり、Post-Baccalaureate studentという、大学院生と学部生の中間のポジションでコンピューターサイエンスの勉強をスタートした。

日本で少し小耳に挟んでいたことだが、コンピュータ



ローズガーデン

ーのフィールドはとにかく中国人とインド人が多い。インド人の先生が授業を教えていることもある。インド訛りの強い英語は、聞き取りにくく最初は面食らった。理系で留学している日本人は珍しく、コンピューターサイエンスにも日本人はほとんどいなかった。自分の取る授業はすべて日本人がおらず、おまけにスピーチの授業で

は（スピーチの授業は必修だった）アジア人は自分だけという、初めてのアメリカの大学生活にしては、かなり過酷なスタートだった。当時アメリカはテロの被害を受けた直後でもあり、アメリカ全体がちょっと不安なムードであったので、自分の留学生活にも正直言って不安を感じた。でもこんな環境で本当にやっていけるのかどうか心配する余裕すらなく目の前にある課題をこなすしかなかった。

しかし、大学の学べる環境がとても整っていることに感心した。まず、図書館は二十四時間利用できるし、キャンパス内のあちこちにはコンピューター室があり、学生はそこでレポートを書いたり、リサーチしたりできるようになっている。それにたいていの授業にはチーフターがいるので、授業のわからないことは彼らに聞けるようになっているのも驚いた。チーフターは学生のアルバイトの時もあれば、マスター、ドクターの学生だったりもする。しかもそれが彼らにとって授業の一環で単位になたりするので、学生も大学運営の中心となって活躍しているのだ。最初の学期は自分の勉強はまるで、右も左もわからない子供のお使いのような状態だった。コンピューターサイエンスの授業は学期の終わりにはクラスの半分程がドロップするほど厳しい授業で、一緒にとつていた統計学の授業も同じくらい厳しい授業だった。学

べる環境が整っているからこそ、先生も生徒に妥協をすることがない。与えられる課題の濃さと多さに圧倒され、図書館で朝まで勉強することもたびたびあった。また、アメリカの学生の先生に対する評価は厳しいときもある。ある授業では先生の講義に対して、「こんな授業では授業料を払うわけにはいかない」と、先生に抗議をした学生もいたくらいで、学ぶことに真剣な学生が多い。先生はもちろんのこと、生徒も相当真剣である。

半年も経つとだいぶ授業にも慣れて、生活していく上でわからないこともほとんどなくなったが、厳しい授業にもまれると、それが本当に自分のやりたいことなのか、本当に自分が好きなことなのか、自問自答することも少なくなかった。しかし、

日本にいるときと違って、プレッシャーというものは不思議と少ない。アメリカの学生は確かにものすごい量の勉強をするが、日本の大学受験と違って、誰もが同じ方向を向いてがむしゃらに勉強しているのではなく、学期ごとに自分のペースで勉強する人が多いからであろう。たとえば、一学期間休んで短期留学したり、一学期間は違う専攻の授業を取ってみたり、みんな時間を

かけて、自分の熱中できるものを探しつつ、大学生活を楽しんでいる。従って社会に出る年齢は人それぞれだ。アメリカの大学と日本の大学の大きく違う点は、年齢を意識しないで勉強することができる。日本のように誰もが似たように年を取っていくのではなく、アメリカの学生は、自分のやりたいことをやるために勉強している。それは年を取るほど顕著で、仕事で上のポジションに就くためにもっと勉強が必要だから大学に戻ってくる人も多いし、また働きながら来る人もとても多い。柔軟にいろいろな経験を持つ人を迎えて、学びたいものが学べるアメリカの大学の環境は、日本とはまったく違うところだ。

日本人の留学生でしかも大学院留学の学生が専攻を変えるというのは、あまり聞かない話だが、自分は留学一年後、専攻を変えた。アメリカ人のまねをしたわけではなく、正直言って自分はコンピューターサイエンスというものを本当に自分でやりたいことなのか疑問を感じていた。確かに勉強していくいろいろなものを吸収したのだが、自分のやりたいことはもっと他にあるような気が



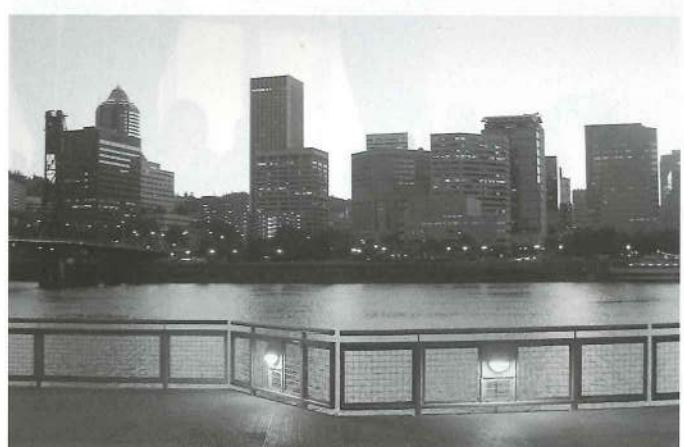
中央が神力さん。両隣はタイ人のお友達

した。あまりにきつい授業に打ちのめされたという本音も少しあるが、コンピューターの授業の合間にとってみた授業が自分に向いている気がしたので、思い切って専攻をエンジニアリング＆テクノロジーマネジメント(ETM)に変える事にした。

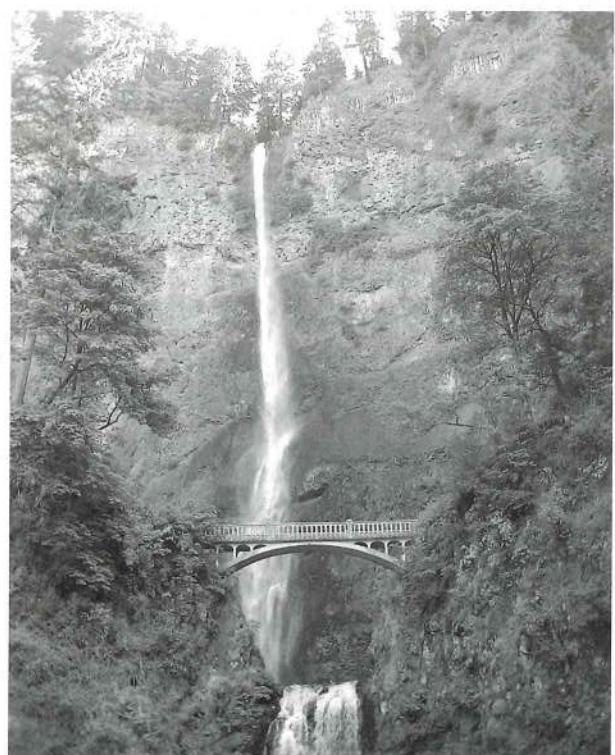
専攻を変え、新しい環境での留学生活が始まった。面白いことに自分はこの専攻でも唯一の日本人であった。なぜかクラスにはタイ人が異常に多く、あるクラスはタイ人が半分を占めていた。専攻を変えたことは自分にとって本当にプラスのようだった。コンピューターサイエンス専攻のころよりも楽しんで勉強するようになり、自分のやりたい勉強をようやくスタートしたという感じがして、とても充実している。ETMは、どのクラスでもグループプロジェクトがあり、学生は自分たちでトピックを選択して4, 5人のグループで小さなプロジェクト

に取り組む。トピックは、ポートランドで実際に進行しているプロジェクトを自分たちの視点で考察したりすることも多く、インタビューやアンケートなどをして、現実的に進めていく。そして、クラスの最後にはプロジェクトプレゼンテーションをしてひとつのクラスが終わる。日本でも今この分野の学問が注目されており、いろいろな大学がコースを開設しているようだ。日本ではどんな授業をしているのか知らないが、アメリカではとにかく現実と結びついた内容をやることが多いのでとても面白い。

自分が何をやりたいのか、何を本当に勉強したいのか、それを見つけるのは本当に難しいと思う。自分がこの二年間で感じたのは、柔軟な大学のシステムと厳しい授業が、自分に本当にやりたいことを与えてくれたのだと思う。留学を薦めるわけではないが、そんな機会はとても貴重な経験だと思う。



ポートランドのダウンタウン



Multnomah Water Fall

みんなの力で、充実した活動が展開されています。

今年度もスタートしてもう5ヶ月が過ぎましたが、当協会では、この間会員の皆様の積極的なご協力により、様々な活動を展開することが出来ました。では、今年度前半に取り組んだ活動の一部をご紹介したいと思います。

総会・交流会が開催されました

5月17日、多くの会員の参加のもと、「総会」が開かれました。ここでは、2002年度の決算や本年度の予算、新理事の選出等重要な案件が諮られましたが、すべて承認され今年度の方向性や具体的な活動が決定しました。

また、総会後は在住外国人をまじえての楽しい交流会が開催されました。



この会では、会員の西條ジェシカさんからフィリピンの有名な民族ダンス「パンプーダンス」を紹介していました。リズミカルな楽しいダンスは、参加者の心をとらえたのでしょう。多くの方が踊りに興じ、楽しいひと時を過ごしました。

日本語ってむずかしい。でも、頑張ります

今年度も大勢の在住外国人の方々が、日本語ボランティアの方々の指導を受けながら一生懸命勉強しています。現在学習している在住外国人の方は、84名。出身別に見るとアジア地区はもちろんのこと、世界各地から来られており、国別では21カ国(8月1日現在)になります。学習時間は、毎週月曜(初級・中級)、火曜(漢字教室)、水曜(初級・中級)、土曜(小中学生対象)の午前中と木曜の夜(初級)にわかっています。

どの曜日も原則として先生と生徒がマンツーマンになって、学習していますが、その姿は、真剣そのものです。ちょっと教室をのぞいてみましょう。

「先生難しい！」



「大丈夫よ。もう一度頑張ってみて。」「そう、出来たじゃない。すごい、すごい」教室のあちこちからこんな会話が聞こえています。

いちご大福もつくりました

今年度2回目の「世界の料理教室」(通算14回目)が、菊田公民館で6月26日開催されました。今回は会員の富澤 歌子さんと片原田 仁子さんにご指導をいただき「日本の家庭料理」に挑戦です。

簡単に出来る日本のおもてなし料理として、「ばらずし」「ハマグリの潮汁」「茶碗蒸し」「ほうれんそうの胡麻和え」を教えていただきましたが、最後にデザートとして「いちご大福」までつくりました。



今回参加された、中国、台湾、タイ、イタリア、アメリカ、エチオピア、パキスタン出身の在住外国人の方も出来具合には大満足。その後行われた試食会では、どの方

も満面に笑みを湛えて・・きっと、ご家庭に帰って、また挑戦したのではないでしょうか。(このレシピは、当協会のホームページ比較文化部会のページに紹介されています。)

私の国は・・・・

6月30日習志野市立実幼小学校6年生の「総合的な学習の時間」に本協会在住外国人会員6名が参加しました。

授業は「国際理解」を目的としたもので、それぞれの方が、勉強した日本語を使って、母国の文化や教育、生活習慣等について一生懸命話しました。もちろん日本語で表現出来ない部分については、ボランティアで参加された方々(4名)にお手伝いをいただきました。また、子どもたちとともに実幼音頭を踊ったり、日本の伝統的な遊び、けん玉、お手玉、こままわし等をしながら楽しい交流もしました。学習後子ども達が書いた作文を見ると、この時間で新しい知識を獲得しただけではなく、在住外国人の方々から、多くのことを学んだことがたくさん書かれていました。

私の願い、天まで届きますように・・・

今年多くのボランティアの方々の協力により、7月3日・7日・9日に「七夕まつり」が行なわれました。まず各自が、折り紙で飾りを作ったり、短冊に願い事を書き、笹に飾ります。しかし、在住外国人の方々には、これが一苦労。今まで習った日本語を使いながら、



「日本語がもっとうまくなりますように。」「ふるさとの家族が元気でいられますように」それぞれが、思い思いに願い事を書きました。みんなの願いがかなえられるといいですね。その後、七夕に関するお話を聞いたり、歌を歌ったりしながら有意義な交流のひと時を過ごしました。

VIVA！ 楽しくサンバを踊りました。

恒例の「習志野きらっとまつり」が、7月27日津田沼

において開催されました。

当協会では、以前からこのお祭りにはいろいろな形で参加してきましたが、2年前からは、国際交流協会独自のサンバチームを結成し「きらっとサンバパレード」に参加、昨年はパフォーマンス賞まで獲得しました。今年も昨年に負けず劣らず、準備の段階から大ハッスル。練習日には、大勢の方々が参加し汗をかきました。

当日も40名が参加して、大いに盛り上りましたが、この参加で市民の方に国際交流協会の一端を理解していただけたのではないでしょうか。



2003年タスカルーサ桜まつり俳句・絵画コンテストの結果が、アラバマ大学キャップストン インターナショナルセンター ジャパンプログラム部長マリリン B アンプレンコアさんから届きました。結果は以下の通りです。

[小1~3年の部]	1等	向山小2年	村上 春さん
[小4~6年の部]	1等	谷津小4年	宮川 寛子さん
[小4~6年の部]	2等	袖ヶ浦西小5年	五十嵐 早さん
[小4~6年の部]	3等	東習志野小6年	大内 翠さん
[小4~6年の部]	4等	谷津小4年	冨紗さん
[小4~6年の部]	佳作	袖ヶ浦西小6年	杉本 美穂さん
[成人の部]		入賞者	山口 博さん

むらかみ	はる
みやかわ	ひろこ
いがらし	さき
おおうち	みどり
すさまち	なぎさ
やまと	みほ
やまぐち	ひろし
くりはら	しちろう
栗原	のぶあき
ながやす	七郎さん
長安	信明さん

* 学年は、出品時の学年です。現在は1年上になります。

今回このコンテストにご応募いただいた数は、俳句の部367点、絵画の部3点でした。多くの方にご応募いただき心より感謝いたします。

なお、11月から2004年のコンテスト募集を予定しております。次号のスクエアや本協会ホームページにテーマ等を掲載しますので、ふるってご応募下さい。お待ちしています。

N.I.A.Youth / 皆さんの参加をお待ちしています。 飛田 美咲 (青少年部会)

こんにちは！！習志野市国際交流協会青少年部会です。

みなさんは、もうSSサロンは、ご存知ですか？

SSサロンとは・・・毎月第2土曜日に、みんなで集まって市内在住外国人やNIAのメンバー・市民の皆さんと外国の文化・言語・習慣にふれあおうという会です。

前号のスクエア62号では、4月の「茶話会」での活動をご紹介しましたが、今回は5月から7月までの活動についてご報告したいと思います。

5月のSSサロンでは「フィリピンの文化を学ぼう！！」というテーマのもと、西條ジェシカさん、アルビン・アベスさん、ジェリルー・アベスさん、そして、蔵持プリンセスさんが、フィリピンの文化やタガログ語をはじめ民族ダンスのパンプーダンス、キャンドルダンスを教えてくださいました。



こわいよー(>_<)

る韓国人留学生グ・ウンギョンさんにやっていただきました。参加者はとても多く25名の方に参加していただきました。

今回は自己紹介の方法をちょっとアレンジして、背の高い順、名前順に並んでコミュニケーションをとり、最後に誕生日順に並んで自己紹介をしました。

これでみんな緊張がほぐれたのか、ウンギョンさんへの質問タイムでは、たくさんの方からいろいろな質問が飛び交いました。

このようにSSサロンでは、毎回とても充実した企画を計画し、実行しています。初めての方は、参加しにくいかもしれません、いろいろなことが勉強できて、たくさんの人たちとふれあえる会なので、ぜひ参加して下さい！また、みなさんの中で次にやる企画を立てたり、イベントを運営してみたいと思う方は、ぜひ当協会の青少年部会に入ってみて下さい。きっと、たくさんの人たちと意見交換ができ、自分のためにもなると思いますヨ。HPも開いていますので、是非見て下さい！！



韓国について勉強しちゃった♪

そして7月のSSサロンは「初級韓国語講座」でした。今回の講師は、協会の会員である



ヤラレター!!(ー□ー)

今年の秋のSSサロンは

9月13日（土）七年まつりの小祭りを見に行こう！
二ノ宮神社に行く予定です。

10月11日（土）バスツアー
行き先はお楽しみです。

詳しくは、NIA青少年部会のホームページ

<http://www1.seaple.ne.jp/nia/Youth/event%20top.htm>
をご覧下さい！

会員紹介／こんにちは、コ・ン・ニ・チ・ハ／みなさん、どうぞよろしく！

日本が大好き！



副長濤（中国出身）

ご主人の仕事に供なされて北京から日本にいらして、今年の9月で10年目だそうです。3年前にお友達の紹介でNIAにいらっしゃるようになりました。現在高校生の息子さんは、小学校に通い始めた頃は言葉で苦労して、特に国語の授業は大変だったそうですが、今では一番の使い手になっていらっしゃるそうです。一方傳さんは息子さんやご主人との日常会話、またご主人の会社のお手伝いでも中国語という生活では、なかなか日本語を使う機会がないそうです。それでも努力家の彼女は、話すことはまだまだ得意でなくても読み書きの勉強は一生懸命取り組み、今ではほとんど不自由しないそうです。NIAが、彼女にとって最高の日本語会話習得の場になっているのは確かなようです。

近代化の著しい北京からいらしたとはい日本物の豊かさや乗り物の便利さは比べようもなく、日本での生活を気にいっていらして5年前にはご家族で帰化の手続きをされたほどです。普段家で作る家庭料理は中華、外食では和食・イタリアン・フレンチといろいろ楽しんでいらっしゃるそうですが、中でも日本のお味噌の味が大好きで、味噌汁・味噌ラーメンが特に気に入りだそうです。

映画もお好きで、ビデオショップで借りてきてよくアメリカのものを観るそうです。日本語の字幕で観るのは、楽しみながら日本語の勉強にもなって一石二鳥だそうです。

とにかく日本も日本語の響きも大好きという傳さんは、日本画や生け花の展覧会にも足を運ぶことが多く、特に平山郁夫画伯の作品にはとても魅かれるそうです。これからもずっと日本で暮らすためにも、日本語が上手に話せるようになり、そして京都や鎌倉など日本の文化を感じられるところにもいろいろ出かけてみたいと希望を語っておられました。（文：萱場あさみ）

手の掛からない主人に感謝！



吉井セルミラ（コロンビア出身）

「吉井セルミラです。コロンビア出身です。主人は、日本人でJICAに勤めています。」
梅雨寒の小雨降る七夕の日にお話を伺いました。初対面なのに堂々と貫禄のあるセルミラさんは、ご主人と共に、1986年に来日しました。これまで世界のいろいろな国に住んだことがあります（パラグアイ2年、ブラジル5年半、ドミニカ1年半）。米国のロックフェラー財団の国際農業センターでご主人が勤務していた場所のコロンビアで知り合い、1973年にご結婚され、現在は、二人のお子さんも立派に成人し、米国フロリダ大学の図書館で司書をしている娘さんと、ご主人の母校（ウィスコンシン大学）を卒業され、名古屋のトヨタに勤務している息子さんのことを誇らしく語っていました。

「日本人の大半の男の人は『お茶を持って来い。酒を持って来い。』とか云って自分のことは自分であります。私の主人は、旅行にいく時も全部自分でやるので手が掛かりませんよ。大変陽気でラテンアメリカ人みたいです。」

コロンビアという国は、南アメリカ北西部に位置し、赤道近くにあり、首都はサンタフェ・デ・ボゴタです。蘭の花、トロピカルフルーツ、コーヒーが主な特産物で、特にコーヒーは、高品質で名高いそうです。国土は、およそ日本の3倍、人口は日本の3分の1ぐらいだそうです。

日本語教室へは、5月から通い始めました。松戸から約1時間かけてレッスンに来ています。「N.I.A.の七夕おはなし会に参加できて嬉しいです。皆さんとお話し出来、とても満足しています。」

インタビューから、セルミラさんの一生懸命生きている姿を感じました。（文：沼澤佳子）

エチオピアから來ました。よろしく！



ティギスト ティラフン（エチオピア出身）

Hello! I'm Tigist Tilahun from Ethiopia, East Africa. Running is my sport which gave me and my husband the chance to meet each other. I'm glad to be here in Japan with him whose profession is teaching. It's really a wonderful country, very interesting and amazing because of the many different things quite new to my sight like the food accompanied with the graceful manner of using chopsticks. Barely we use our hands in contrary. Japanese people eat lots of fish, other sea product and noodles while Ethiopians usually eat meat from lamb, sheep, goat ox, fowl, etc with vegetables, too. Next the custom, language & alphabet. The custom of drinking tea as we drink and produce good coffee instead. Nihongo seems to be very difficult especially the Kanji character compared to our "AMHARIC" which is the official language spoken. The climate as well, is very much different, we only have "dry" (Sept.-Dec.), "the very dry" (Jan.-May) and "wet" (June-Oct.). Another interesting points in addition are the Tatami mats, the trains and many others. I do enjoy these differences which add up to my knowledge. Thanks to Narashino International Association who has been of great help for I could already socialize with Japanese people through learning the language formally from volunteer teachers who untiringly offer their services to foreigners.

（文：Maria Jessica Saito）

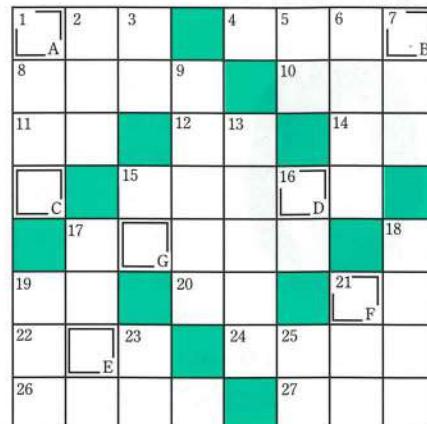
Letsチャレンジ／ザ・英文クロスワードパズルNo.63/プレゼント付！

〈Across〉

- Fruit boiled with sugar and preserved in jars, etc.
- Main island of the Republic of Indonesia, and the Capital City of JAKARTA located in this island.
- Single person or thing or group regarded as complete in itself.
- , got, got,
- North Dakota
- Home Office
- Royal Engineers
- Rot or spoil.
- Form of play, esp. with rules (e.g. tennis, foot-ball).
- A chemical symbol for Titanium.
- East Asia
- A chemical symbol for Tantalum.
- Period in history, starting from a particular time or event.
- Layer of hard substance over the outer tip of a finger or toe.
- The — mountain range: covering France, Italy, Switzerland, and Austria.
- Border or edge of cloth, esp. when turned and sewn down

〈Down〉

- Flat-bottomed Chinese sailing-vessel.
- Two — three makes five.
- Mile
- August
- Thank you — much for your kindness.
- eat, —, eaten,
- Idea which is the subject of a talk or piece of writing.
- The body of salt water that covers nearly three fourths of the earth.
- District Attorney.
- soon — the bell rings the pupils go into the classroom.
- Female child, daughter, unmarried woman.
- Sorts of tree growing in warm climates, with no branches and a mass of large wide leaves at the top.
- (Dried leaves of) evergreen shrub of Eastern Asia: drink made by pouring boiling water on these leaves.
- Equal score in a game etc.
- Associated Press
- Ampere Hour



〈出題者〉 御園生 韶 (編集部)

〈応募要項〉

クロスを解いたあと、A~Gの文字をつなげてできたことばが正解です。

解答と住所、氏名、年齢、職業、電話番号、本誌の感想等を書いて送って下さい。解答は、ハガキ、FAX、Eメールで10月末日までにお送り下さい。

正解者の中から抽選で5名の方に、図書券をプレゼントします。

「N.I.A.スクウェア」編集部まで。

たくさんのご応募お待ちしています。

ALTが3名変わりました。みなさんよろしく。

習志野市教育委員会に配属されていますALTの方々には、ALTサロン等で大変にお世話になっていますが、この7月末で、残念ながらジョシュア・ライドインアワーさんとナオキ・カネコさん、メリアン・エスペレッタさんの3名の方々が帰国されました。

新たに下記の方々がいらっしゃいましたので紹介します。

- ジェームス M ドケリーさん (JAMES M. DOCKERY)
アメリカ合衆国 アラバマ州 タスカルーサ市出身
- ニコラス S プランテさん (NICHOLAS S. PLANTE)
カナダ オンタリオ州 ハミルトン市出身
- リアン R コロンナさん (LIANE R. COLONNA)
アメリカ合衆国 ニューヨーク州 ニューヨーク市出身

以前より活躍されているアジト・カウルさん、エドモンド・ホーさん、タマラ・ラナツンガさん、アラン・キッドさんともどもよろしくお願ひいたします。

ALTの方々は、9月から市内の中学校を中心にして英語学習のアシスタントとして活躍されます。もちろんALTサロン（毎週月曜日午後4時から）にも参加していただけます。皆さんの参加をお待ちしています。

編集後記

- * Since juvenile crime is becoming a problem nowadays, here's a little message to parents/guardians. Try to communicate in many ways. (J.S.)
- * 「日本が大好きです」という外国の方にお会いするたびに、自分自身も好きと言える日本であって欲しいとつくづく思います。 (A.K.)
- * この9月の第63号で、アジア州の一つインドネシア共和国について、編集部員の友達のYessyさんに特集記事を埋めて貰いました。インドネシア文化とタナトトラジャ民族に焦点を当てて書いていただきました。興味や疑問を持たれた方は、ご一報下さい。彼女からコメントしてもらいます。ネシア語は複数形が無いそうで、状況に応じて話者の内容を慮るなんて日本と似たところがありますね。 (Y.T.)
- * 国内旅行が海外旅行のように楽しめるインドネシア。日本に住んでいると異文化がとても特別なものに感じられますが、インドネシア人にとっては当然のこととして受け入れられているのでしょうかね。 (Y.K.)

会員の小池菜津子さん（日本語ボランティア）が平成15年5月30日にお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

前回の解答

〈解答〉 KATHMANDU

N	A	T	O		A	R	K
E	I		N	E	P	A	L
V	A	N		T	E	C	
E		T	O	O		E	T
R	T		A	N	D		I
	R	C	P		B	U	T
P	E	A	C	E		M	L
H	E	N		G	A	T	E

当選者

石井 美帆さん 篠塚 仁貴さん
深山由香里さん 紅露 聰子さん
河原崎隆司さん

くお詫び>前回の応募要項の文字数と期日に誤りがありました。深くお詫び申し上げます。

N.I.A.スクウェア・第63号

発行2003年9月1日/発行責任者・白鳥 純

編集・習志野市国際交流協会

編集責任者・館川 裕

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼5-12-12

サンロード4F

TEL/FAX 047-452-2650

<http://www1.seaple.ne.jp/nia>

<Eメール> nia@seaple.ne.jp